

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館 学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

縦横無尽

タテとヨコ色とかたちのフィールドワーク(16) :
タテ系の張力と織機の型式6 : 杵機

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2014-03-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉本, 忍 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5218

無縦 尽横

タテとヨコの 色とカタチの ファイールドワーク

吉本 忍

タテ糸の張力と織機の型式6

枠機

枠が張力を付与している機

枠機は、タテ糸の一方を枠の一部を構成している棒に固定し、他方もまた枠の一部を構成している棒に固定することによってタテ糸に張力を付与する型式の織機である。したがって、枠機の構成部品として、枠はタテ糸を直接、あるいは間接的に保持するためのタテ糸保持具として不可欠のものである。そうした枠の形状は一般に四角形を呈しており、そのうちにはわが国で使用されているようなタテ巻き具と布巻き具をともなつた高機も包括される。また、そのほかにも、例外的な枠の形状としては弓状の枠も見いだされる。

広範な分布

タテ糸の張力と織機の型式については、本稿の枠機で6回目の連載となる。そうしたこれまでの連載においては、手機、足機、腰機、

地機のうち、手機と足機がともに局地的な分布にとどまっているのに対して、腰機と地機はいずれも世界の広範な地域に分布していることを指摘してきたが、枠機は腰機や地機よりもさらに普遍的にもちいられてきた織機といえる。そして、その分布は機織りがおこなわれている世界の広範な地域、すなわち、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、オセアニアにおよんでいる。そして、このような枠機の分布のうちには、もとより日本も含まれている。



写真1 カシュカイ人の水平式枠機による機織り(イラン、アータシュ・カデ村:1998年)



写真2 ユルック人の垂直式枠機による機織り(トルコ、アクス近郊:2003年)

写真4 アゼルバイジャン人の傾斜式枠機による機織り(アゼルバイジャン、バクー:2004年)



写真3 マハフアリ人の垂直式枠機による機織り(マダガスカル、アムバニヒ:1993年)



写真5 グルジア人の傾斜式枠機による機織り
(グルジア、ラリスコリ村：2004年)



写真6 カブレ人の垂直式枠機による機織り（トーゴ、ランダ：2000年）

にかけわたされたタテ糸の角度と密接に関係する枠の設置方式としては、シルクロードとその周縁地域では、垂直式、傾斜式、水平式を、さらにマダガスカルでは垂直式と水平式を確認している。そして、マダガスカルの水平式以外のすべての枠機では、もっぱらカーペットが織られていた。

綜統固定式の枠機

先月号では地機について、開口具が綜統可動式の地機や無綜統の地機とともに、綜統固定式の地機があるということを紹介したが、そうした開口具の違いについては枠機も同様であり、枠機のうちにも開口具が綜統可動式の枠機、無綜統の枠機、綜統固定式の枠機がある。また、とくに綜統固定式の枠機の分布地域は綜統固定式の地機の分布地域とほぼ重複するシルクロードとその周縁地域に集中しており、その他の分布地域としてはマダガスカルを確認しているに過ぎない。なお、枠機

ただし、枠機を使って織られている織物は、カーペットやムシロやゴザといった、おもに敷物としてもちいられてきた厚手の織物が多く、衣料としてもちいられるような薄手の織物が織られていることは稀である。したがって、枠機はカーペットを織るための織機やムシロやゴザを織るための織機といった、特定の織物を織るための専用の織機として使用されているばあいが多く、今日、枠機がもっとも普遍的に使われているところとしては、ペルシア絨毯やトルコ絨毯をはじめとするさまざまなカーペットが織られているシルクロード地域がその筆頭にあげられる。



写真7 ケチュア人の水平式枠機による機織り（ペルー、タキレ島：1999年）

綜統固定式の枠機には、開口具として輪状綜統1枚と開口保持具1本があり、この点も綜統固定式の地機と同様である。ただし、綜統固定式の地機では先月号で説明したように輪状綜統の先にある開口保持具を手前に引き寄せたり、遠ざけたりすることによって、タテ糸の開口と逆開口をおこなう。しかし、枠機には枠を地面や床に置いた水平式の枠機（写真1）のほかにも、枠を垂直に直立させた垂直式の枠機（写真2、写真3）、枠を壁に立てかけるか、2つの枠機を背中あわせにもたれあうように組んだ傾斜式の枠機（写真4）がある。したがって、水平式の枠機ではタテ糸の開口と逆開口の操作は、地機の場合はと同様に輪状綜統の先にある開口保持具を手前に引き寄せたり、遠ざけたりすることによっておこなわれるが、垂直式と傾斜式の枠機の場合は、輪状綜統の上にある開口保持具を下に引きおろしたり、上に押し上げたりす

ることによってタテ糸の開口と逆開口がおこなわれる。なお、輪状綜統を固定する方式としては、綜統棒の両端と枠、あるいは綜統棒の両端と床面や地面とのあいだに木片やレンガなどの支台を置いて綜統棒を枠から浮かせた状態で固定する方式が一般的である。ただし、今年の8月にコーカサスのグルジアでおこなった傾斜式の枠機の調査では、枠の両側に組み込んだ2本1組のクサビ状の支台の切れ込み部分にかけた紐で、綜統棒の両端を引き上げて固定する方式も確認している（写真5）。

綜統可動式の枠機

綜統可動式の枠機には、開口具として輪状綜統1枚と開口保持具1本を使用した例、2枚1組の輪状綜統を使用した例、開口棒綜統を使用した例、開口板綜統を使用した例がある。さらにそのほかにも、冒頭でも述べているようなタテ巻き具と布巻き具ともなった高機があり、このばあいの開口具としては基本的に2枚1組の番目綜統が使われている。

以上のような綜統可動式の枠機の開口具のうち、輪状綜統1枚と開口保持具1本を使用した例としては、これまでにアフリカのトーゴで垂直式枠機（写真6）、カメルーンで傾斜式枠機、北米のアメリカやカナダで垂直式枠



写真8 ウイグル人の垂直式枠機による機織り（中国、新疆ウイグル自治区、和田：1999年）



写真9 日本の傾斜式枠機（ムシロ機）による機織り（長野県原村：1996年）



写真10 アゼルバイジャン人の垂直式枠機による機織り（イラン、ハルハル村：1998年）

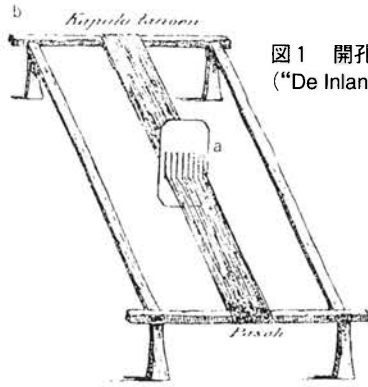


図1 開孔板綜統をともなった水平式枠機
（“De Inlandsche Kunstnijverheid in Nederlandsch Indië II, De Weefkunst”より）

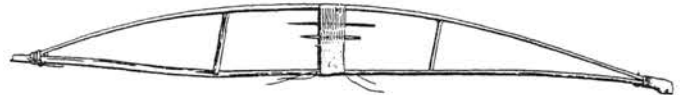


図2 弓状の枠をともなった枠機（“Studies in Primitive Looms”より）

無綜統の枠機

綜統をともなわなない無綜統の枠機のうちには、綜統固定式の枠機や綜統可動式の枠機と同様

呼ばれている（写真9）。
一般にムシロ機（苧機）の名で

機、中米のグアテマラで垂直式枠機と傾斜式枠機、南米のエクアドルで垂直式枠機、ペルーで水平式枠機（写真7）、ボリビアで傾斜式枠機を確認している。また、2枚1組の輪状綜統を使った例としては、シルクロード地域に含まれる中国の新疆ウイグル自治区で垂直式枠機（写真8）、イランやコーカサスのアゼルバイジャン、アルメニア、グルジアで垂直式枠機と傾斜式枠機を確認している。そして開孔板綜統を使用した例としては、日本と朝鮮半島で垂直式枠機と傾斜式枠機、タイで垂直式枠機を確認しており、さらに開孔板綜統を使った例としてはインドネシアに水平式枠機（図1）がある。なお、日本、朝鮮半島、タイの開孔板綜統をともなった枠機は、いずれもおもにムシロやゴザなどを織るために使われてきたもので、わが国では

に垂直式枠機、傾斜式枠機、水平式枠機がある。それらはシルクロードとその周縁地域での使用を確認しているが、そのほかにもオセアニア（メラネシア）のソロモン島では木の枝を使つてつくられた弓状の枠をともなった小型の枠機が見いだされる（図2）。
シルクロードにおける無綜統の枠機の多くはカーペットを織るために使われており、いずれも開口具として開口保持具をそなえている。ただし、イランやアゼルバイジャンの垂直式枠機と傾斜式枠機のうちには、一見すると綜統固定式の輪状綜統と見誤るようなタテ糸整列具をともなったもの（写真10）が少なからずある。なお、そうした特殊な枠機は二〇世紀後半の技術革新によって出現したと見られるが、この件については、いずれこの連載のなかで詳しく紹介する予定である。
また、シルクロードとその周縁地域で使われてきた無綜統の枠機のうちには、前記のようなカーペットを織るための枠機のほかに、ムシロやゴザを織るための枠機もあり、昨年と今年の現地調査で、トルコとアゼルバイジャンでは垂直式枠機の使用例を、グルジアでは垂直式枠機と傾斜式枠機の使用例を確認している。なお、アゼルバイジャン南部のサトルバ村でおこなった、ムシロ織りに使われて



写真11 アゼルバイジャン人の垂直式枠機による機織り（アゼルバイジャン、サトルバ村：2004年）

文献

- Jasper, J.E. and Mas PRINGADIE
1961年 De Inlandsche Kunstnijverheid in Nederlandsch Indië II, De Weefkunst.
De Boek & Kunststruikerij v/h Mouton & Co.
ROTH, H.L.
1961年 Studies in Primitive Looms
Hallfax: Bunkfield Museum.
吉本 忍・柳 悦州
2002年「シルクロードの織機」、シルクロード学
研究13「シルクロード織機研究」、シルクロード学
研究センター。
吉本 忍
1987年「手織機の構造・機能論的分析と分類」
『国立民族学博物館研究報告』12巻2
1994年「マダガスカルの機織り文化複合」『季刊
民族学』68号 千里文化財団。
2002年「イラン、ウズベキスタン、中国・新疆
ウイグル自治区の地機と枠機と高機」、シルクロ
ード学研究13「シルクロード織機研究」、シルクロ
ード学研究センター。

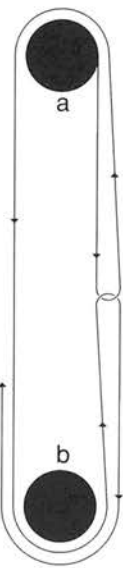


図3 アゼルバイジャンのサトルバ村における擬似輪状整経式のタテ糸のかけ方
a—タテ糸保持棒 b—経糸保持棒

いる無綜統の垂直式枠機（写真11）の調査では、タテ糸の整経方式が擬似輪状整経式であった。ただし、その整経作業にはタテ糸中継棒やタテ糸中継紐が使われておらず、図3に示したようにタテ糸のループになった部分を番目状に交又させるといふ、これまではまったく例を見ないものであった。

（国立民族学博物館民族文化研究部教授／

よしと・しのぶ）